

# 掛川市図書館協議会議事録

会議名	平成30年度第2回図書館協議会		
場所	掛川市立大須賀図書館 会議室		
開催日時	平成30年9月25日(火) 午後1時30分から午後3時30分		
出席者	会長 代理 委員 委員 委員 委員 委員	長 理 員 員 員 員 員	鴻野元希 福住久美 鈴木由加里 増田美穂 眞子尚代 戸塚ひろみ 岡田昇 田中克美
			館長 副館長 主任 中央図書館係長 大須賀図書館係長
			奥野寿夫 鳥居久美子 栗原信雪 後藤晶子 澤島基乃

## 1 協議事項

- (1) 図書館の運営基本方針について

## 2 報告事項

- (1) 図書館利用者懇談会について  
 (2) 「平成30年度 静岡県図書館」について  
 (3) 「平成30年度 掛川市の図書館」について  
 (4) 平成30年6月以降の事業実施状況・予定  
 (5) 平成30年8月末までの利用状況  
 (6) 図書館関係事業  
 ① かけがわ図書館フェスティバル(10/27～11/4)  
 ② 第12回かけがわ教育の日(11/17)  
 ③ 静岡県図書館大会(11/19)  
 (7) 掛川市図書館協議会委員の公募について  
 (8) 「かけがわ歴史文化デジタルアーカイブ」構想について

## 1 開 会

### 2 会長あいさつ

### 3 館長あいさつ

## 4 協議事項

- (1) 図書館の運営基本方針について

事務局より資料にて説明。

会 長：浜松市のビジョンと掛川市の方針とダブるが「つくる」という言葉は妥当か。  
 ここで策定されるものは、冊子にするのか。

館 長：冊子にしていきたい。

会 長：4ページの指標について、掛川市はまずまずだと思うが、近隣の御前崎市が突出している。

館 長：御前崎市の貸出冊数は、市民1人当たり10冊を超えている。  
 御前崎は、近隣市の来館者が多いと思われる。

委 員：表4の年齢層別貸出利用者数について、人口に対してどれくらい利用しているかを年代別に割るとよい。人口が減少していても、利用者が減っていなければ悪い傾向ではない。

会 長：出生数がこの数年で1,000人を切った。

館 長：高齢者は増えているので、人口については次回までに調査する。

会長代理：4ページの専任職員数1人当たり奉仕人口について、これは非常勤職員は反映されていない数字なのか。

事務局：常勤・非常勤関係なく、勤務時間で計算し専任を算出して県に報告している。

会長代理：職員の方は忙しいのに、このような表だけで忙しさが反映されていないように感じる。

委員：16ページに文部科学省調査では、数値指標または数値目標を設定している館のうち貸出冊数93%とあるが、どのような数字か説明願いたい。

館 長：平成24年12月に文部科学省が基本的運営方針を策定するのが望ましいという基準を出したが、平成28年1月に実際に策定した図書館がどれだけあるのかということ調査したところ、約半分の図書館で策定しており、先日の研修会でも数値目標を持っている図書館は半分くらいであった。

この調査と同時に、運営方針を持っている図書館でどのような数値目標を設定しているかという調査も行った。数値目標については、図書館独自で決めることとなっており、実際にどのような目標を設定しているかといえは、貸出冊数という目標を設定している図書館が93%ということである。

登録者数を目標に設定している図書館が53%、貸出者数が47%、入館者数が40%となっている。掛川市はこの四つをすべて入れた。利用登録者数及び蔵書冊数は、先ほどの指標で先進的な市と比べても掛川市は良いが、それ以外は厳しい状況である。

委員：表の貸出利用者数市民1人当たり2.0回とあるが、それはどのような数字なのか、一年に1人が2回借りるという意味か。

館 長：この貸出利用者数と実利用者数の関係が分かりにくい。貸出利用者数は、毎日何人の方が借りているかの積み上げである。

委員：これを市民の人数で割っているのか。

館 長：2.0回は市民の数で割っている。

委員：2.0回を2.1回にしたいということか。

館 長：貸出利用者数というのは、実際に1人の方が、3回借りていると3回とカウントする。1人2回というのは計算上の数字である。

実利用者数は、図書館を利用した方の人数で、詳細にいうと市外の方も入っている。これが年々減っているのが、危惧している。貸出冊数については増減がある。

会長：借りる方、利用する方は月に何回も何十回も図書館に来る。一般市民12万人の中で、実際に図書館に行ったことがない方が圧倒的に多い。

館 長：図書館を利用する方は市民の17%くらいであるが、将来は2割くらいにしたい。進んでいるところは3割くらいである。

会長：スマホの影響で10代、20代の若者が減っている。図書館として、何らかの手立てがあるか。

館 長：現在は、デジタルで読む本も読書として数えるという考え方もある。

会長：そうすると図書館の役割が、今後問われてくる。

会長：5ページのミッションでは、図書館は「必要な知識・情報を提供する。」また、「市民の暮らし、まちづくりを支援する。」という使命・役割となっている。そして、4の目指す姿は、このような内容である。

前回、指摘があった上位計画との関係については、全面的に訂正し分かりやすくまとまっている。

そして「教育大綱かけがわ」、「人づくり構想かけがわ」等が関連していることが分かる。

次の7ページ・8ページには、運営基本方針の体系について、「楽しむ」「役立てる」「つながる」「つくる」という四つのキーワードで図書館としてのあり方を示している。

後に触れると思うが、「役立てる」の中にある(2)⑤デジタルアーカイブの状況はどうか。

館 長：現在、計画中である。

会 長：今後、具体化してくるということである。一昨年、磐田と浜松を視察したときにアーカイブを進めている状況であった。

委 員：8ページ「楽しむ」(1)読書活動の推進の①「読書の楽しさを広め読書活動を推進」が分からないので説明願いたい。もう一点「役立てる」の(2)貸出、情報サービスの④インターネット等による外部アクセス、地域内外の機関等の紹介について説明願いたい。

館 長：これは、10ページの6の(1)読書活動の推進の①で、「読書の楽しさを広め、読書活動を推進します。」をここにまとめたもので、読書活動推進の上では、読書の楽しさを皆さんに知っていただくということが必要である。同時に「役立てる」ということでは、図書館の資料を役立てていただくという側面がある。

2の(2)のインターネットでは、こちらも言葉を詰めてあるが、12ページの(2)の④に、利用者がインターネット等の利用により外部の情報にアクセスできる環境の提供、それと同時に利用者の求めに応じて資料・情報にアクセスできる地域内外の機関を紹介するサービスの実施に努めるということである。

他の機関をつなげていくサービスが必要であり、これは今後の課題である。

今年度、国立国会図書館のデジタル化した資料を中央図書館で見られるサービスを開始する。既に磐田市などで行っているが、今まで国立国会図書館から取り寄せていた資料が中央図書館で見られるようになる。

委 員：④はわかりました。

会 長：楽しさを広める活動を具体的にといわれると、いったい何をもって楽しさを広めるのか。図書館で楽しさを広める活動は何をしているのか。

例えば「ブックトーク」とか「出前サービス」「よみきかせ」などを行っているということなのか。

委 員：図書館を楽しむということなのか、読書を楽しむことなのか。「誰が」役立つ図書館をいっしょにつくっていくという感覚なのか。役立てるというのは誰が役立てるということなのか、役立つように活用する方もそうである。

会 長：図書館として読書を楽しんでもらうような工夫をする。

館 長：楽しむということは、基本的には市民・利用者が主体となっている。浜松はそこがはっきりしていて、浜松のビジョンでは「わたしは」と書かれている。

「わたしは図書館の機能を活用します。」「わたしは図書館で知ることを楽しみ、地域の中で成長します。」と書かれていて、大変よくできている。ここでは市民利用者が、この体系図では読書とか図書館に親しむ。楽しむのは図書館だけでなく、こども読書活動には書店も入っているので、みんなで読書活動を推進し、図書館はその中で主な役割を果たそうと思っている。

役立てるのは、図書館サービスを実施させることによって、皆さんの暮らしに役立てる。市民や利用者を対象に考えている。

委 員：資料がスマホに入っているという時代になっていて、資料を提供する役割から考えたら、図書館自体の意味が薄れていく。学校もそうだが、教える内容であれば、どんな物でも教えられるが、やはり人と人とのつながりがあって、そこから実際に体に入っていく。学校であれば、生徒や学生とのつながりがあって人間形成ができていく。文字や資料だけでは出来ないものがある。

図書館という場所が、人間をつないでいく・市民をつないでいくようになる。図

書館として、いろいろやっていただいているが、そういったものも役に立っている。

9ページの市民との協働で、先ほど会長さんから読書会を行っているということでしたが、読書会というのがあるのか。

会 長：10万人都市で図書館に読書会がない市は珍しく、いままでも読書会はいろいろなところでやっていて、いろいろなものがあるはずであるが、図書館とつながった私たちの読書会はないという話になったので、始めることとなった。広く呼びかけを行い最初40人くらいで始まり、最終的に15人くらいの方々が現在つながっている。4・5年続けている。

委 員：市が合併する前に、こどもの本を読む会をやっていた。その一冊の本についていろいろな意見をだして楽しい会であったが、なくなってしまった。そのようなものがあればやってみたい。

会 長：私たちがやっていたのは、図書館を支える、あくまで市民が主体的にやる読書活動であって、図書館がかかわって何かするというわけではない。レファレンスサービスをお願いすることはある。図書館も何かをしなければならないということで、ここでは、読書の活動を推進するということが抽象的ではある。では具体的にどのようなことがあるのか、月に一度はよみきかせを行い、小学校・幼稚園の出前もいって、というような活動を行っていくことではないか。  
それが具体化されていないので、楽しさを広めるとはどういうことなのか、みえにくいところはある。具体的には、ほんわかプランなどの計画は立てているが、一般市民の方がどうなのか、先日チラシを置いておいたら、年配の方から連絡があり、図書館の会議室でやっているの、是非来てくださいと伝えた。図書館でやっているというのがとても意味があることで、図書館はそういうところであると知らせる意味もあって基本的に図書館を使うということをやっている。そのようなかたちで図書館を利用することがこんなに楽しくて、ためになるということを皆で考えられたらいい。

委 員：掛川市では26団体あるが、その中にある団体と同じか。

会 長：同じである。だから、図書館のフェスティバルにも協力している。俳句の会の方もいて、図書館の施設を利用するためには、その26団体に入れば会議室を借りることが出来る。それをもっと広げて、いっそのこと市民に開放することもいいと思っている。もちろん、読書に関係することが条件であるが、そのように図書館施設を利用することもいいのかなと考える。  
写真展などを行ったり、それも協力団体であれば貸してもらえ。特に中央図書館は、いいギャラリーなので、そこを借りて何かをしたい方も多く、それも図書館を楽しむ一つの方法である。

会長代理：浜松市の体系図は、一番上に図書館からの約束と市民の図書館未来宣言と分けて記載されている。掛川市の8ページ以降の施策の一覧表のなかでは図書館がやっていただけることが主軸でうたわれている。図書館では、これからもサービスを充実させることが書かれていて、浜松は市民が「図書館で楽しみ地域の中で成長します」など、自分発信で書かれている。掛川は、市民が何をしていくのかがみえにくいのではないかと。

会 長：これは基本的に施策なので、図書館としたらこのようにしますということである。

館 長：浜松の表を見ると、市民の図書館未来宣言は市民からみてこのようになりたいということになっている。それに対して、目指す方向性については図書館側がこれをするということで、実は、パブリックコメントの案はもっと詳細で「朝起きた23歳の私は、スマホでチェックしたら、図書館でやっていることがあるので、仕事の帰りに図書館に寄ってみる」など、すぐリアルで具体的な市民像がでてくる。これはなかなか困難で、今までこのような計画はみたことはない。

会 長：それは、指定管理という大きなものがある。指定管理者にとってみるといかに利用者を増やして、安定的な経営が出来るかということが大きな目標である。どうしても市民寄りの立場に立っての具体的な施策が上がってくると思う。しかし、ここは市の施策として行っていくということである。

浜松市は「いらっしやませ」というかたちである。それはそれでいいが、少し危惧している。

なお、浜松市の中央館以外は、市民サービスを徹底している。市民にとってみれば、居心地の良さそうなことが、増幅してきていてこれが公立図書館なのかというように感じた。

掛川は、市にがんばってもらいたいと思っている。掛川にも同じようなものが出て来て図書館を市民が支えていくという機運が盛り上がっていくといい。そのきっかけにはなると思うが、具体化するの結構大変であり、例えば高齢者に対するサービスなどはどうか。

館 長：11ページ(3)の①が具体的な内容であるが、高齢者と一括りにいっても広く、この頃いわれている人生100年時代になっていることから、考え方も変わってきている。現在は、このような内容で考えている。

会 長：今後においても、役立てるといところで各講座があるが、いつもいっぱい盛んにやっているが、もっとあってもいいと考えている。そのために市民が図書館を利用して帰りに本を借りて帰る。そのような試みというのは絶対に必要で、実際に人材があるのでそれを活用していったらいいと思う。そのようなかたちの講座を積極的にやっていただきたい。

館 長：その辺りが13ページの(2)・(3)にあり、(2)は図書館側で講座を設定し、(3)では市民にそのような機会を増やしていきたい。

会 長：協議会は議決機関ではないが、ここで決まったことが具体的に施策に反映していくというシステムになっている。協議会の議を経て練られたことが方針として決定されている。

館 長：この計画を提案したときから、この14ページの(4)の主要事業(1)にあるように図書館協議会が事業サービスの点検評価を行うよう、仕組みづくりをしていきたいと考えている。この方針を策定するにあたり、図書館は何のためにあるのかということをも改めて考えた。現在の図書館は、この中にある資料を収集し、整理し提供するというのが図書館の基本ではあるが、同時に読書活動を推進してサービスを充実させていくことが求められている。

この四つある「楽しむ」「役立てる」「つながる」「つくる」という言葉で分かりやすくしたいと考えた。

会 長：他になければこのかたちで進めていただくということによろしいか。

委 員：10ページ(1)の③について、こども読書週間がなくなり、秋の読書週間になったが、こども読書週間を入れてほしい。

館 長：こども読書週間については、11ページに整理をさせていただき、「こどもの読書週間」や「図書館フェスティバル」とし、こどもに関するものを11ページにもっていった。他のものを10ページに整理した。

委 員：歴史・郷土の資料集や、アーカイブは将来的に歴史を学ぶ学生や中高年の方にとってもいいことである。国立国会図書館の蔵書ともつながるといことで非常にいい。その他県立の図書館や地域とつながりのある図書館、例えば、掛川市に関係する高知市の図書館など。

昔藩があったときに藩士や殿様が移動した関係で、地域とつながりのある図書館と連携して、資料なども相互に交換したらどうか。作業する図書館は大変であるが、そのようなことができれば、図書館にいながらにして、より歴史の情報が収集できる。郷土資料を勉強する者にとっては、期待したい。

ここに「掛川市の郷土資料」と書かれているが、地域を固定している感じがするので、もう少しエリアを広げてもいいのではないか。「掛川市を中心とした」などの表現でもいいのではないか、昔の行政区域ではなく、例えば袋井市の山崎地区などは昔は笠原村で、周りが浅羽町・袋井市が入り組んでいて、山崎地区の歴史が浮いてしまっている。図書館で資料を広域的に収集してもらおうと、歴史を学ぶ者にとっては、非常にありがたい。この地域に大須賀の図書館と浅羽の図書館があるが資料のダブリがある。

市町の歴史を後世につなげていきたいと考える。

- 館 長：たしかに掛川市のことは掛川市として行わなければならないが、実際には、掛川市だけでなく周辺の町もあるので表現を考える。
- 会 長：デジタル化は、とりあえず掛川市史をデジタル化するのか。
- 館 長：今考えているのは、まず市の文化財である。
- 会 長：図書館でやるとしても、一つのセクションをつくらないと難しい。写真を提供してもらってという話があったが、誰がやるのかということになる。
- 館 長：それについて、図書館職員だけでは出来ないのも市民の皆様にも協力いただく。
- 館 長：早めに組織化したり呼びかけをしないと、膨大なものが集まってしまう。以前、中央図書館で呼びかけをしたら、いらぬ物がたくさん集まり、廃棄処分しなければいけない状態になった。しっかりした組織をつくっておかないといけないので、なかなかこれは大変である。また、それをスキャナーをかけてデータ化していくわけであるから、市がしっかり予算化し人を雇って、部屋もつくってやっていただければと考える。
- 委 員：大東で資料室をみせていただいたが、膨大な紙の資料が山ほどあり、今はどうなっているのか。
- 館 長：「河井家文書」の保管は図書館で行っている。  
宮内庁が関わるものなので東京から調査に来た。
- 会 長：資料の保管や収集などはお金がかかる話なので大変である。  
国立国会図書館デジタルコレクションは、3館に置くのか。
- 館 長：まずは中央館である。
- 会 長：明治期初期の初版本などは、デジタル化してあるので、研究者にとってはいいが、一般の方が果たして使うのか。年間いくらかかるか分からないが、かけるだけの価値があるのか、なんなら磐田にいつて調べたらと思った。
- 会 長：このかたちで進めることでよろしいか。
- 館 長：ご意見等あれば10月末くらいまでをお願いした。  
次回の視察までに変更等を報告し、一般に公開しご意見を求めていく。

## 5 報告事項

- (1) 図書館利用者懇談会について
- (2) 「平成30年度 静岡県図書館」について
- (3) 「平成30年度 掛川市の図書館」について
- (4) 平成30年6月以降の事業実施状況・予定
- (5) 平成30年8月末までの利用状況
- (6) 図書館関係事業
  - ① かけがわ図書館フェスティバル
  - ② 第12回かけがわ教育の日
  - ③ 静岡県図書館大会
- (7) 掛川市図書館協議会委員の公募について
- (8) 「かけがわ歴史文化デジタルアーカイブ」構想について

## 6 連絡事項

- (1) 第3回図書館協議会（視察研修）
- (2) 第4回図書館協議会

## 7 閉 会